



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

さあ2学期のはじまりだ

夏休みが終わった。8月28日(月)は2学期の始まりの日だ。子どもたちは、大きな袋に作品やら自由研究の作品やらを詰め込んで登校してきた。教室では、仲間久しぶりに出会うことになる。一生懸命取り組んだ作品のできばえはどうか、苦勞したことはどんなことだったか、さらには、毎日どんなふうにして過ごしたか、とっても楽しかったことや自慢したいことは何かなどということもきっと語られるにちがいない。

1学期と同様に、校門のところであいさつをしていると、「校長先生、お久しぶりです。」「2学期もよろしくお願いします。」と声をかけてくれる子がいた。しかし、そんな子はどちらかと言えば少数で、ほとんどの子は、暑さも手伝ってのことだろうが、どこか疲れ切ったような、うつむき加減だった。中には教室に入りづらそうにしている子もいた。

宿題ができておらず、気まずいのだろうか。それともなんとかできたものの、昨夜は親に夜遅くまで怒られながら取り組んで、睡眠不足なのだろうか。休み中は、これといって楽しいところへ連れていってもらえずに、友だちからどこかに出かけた楽しい話を聞くのがつらいのだろうか……。

過日、NHKの番組で、小学生男女に、夏休みは楽しいか?と問うアンケートのことが報じられていた。結果は39%が「そうでもない」と回答したとのこと。理由は、宿題が多い、友だちに会えないということらしい。何か夢中になれる楽しいことがあればいいのだろうが、外あそびは子どもだけではダメとか、ゲームをやりすぎるのもよくないといったことなどで、身動きのとれない状況が数値となって現れたのだろう。子どもの置かれた厳しい現実が見えてくる。

そんな心配をしながら始業式を終え、2時間目となり、やがて休み時間となった。すると不思議なことに、朝の心配な姿はどこにもなく、にぎやかな声とともに友だちと連れだって運動場や図書室に向かう姿があった。1学期の末に感じられたやわらかな雰囲気に戻っていたのである。おそらくそれぞれの教室では、担任の先生によってはたらきかけがなされ、あたたかな見守りがあったのだろう。しかしながら、明るく前向きな姿勢を、仲間と共に過ごしながらかたちで広げていくことができる力は、子どもたちに確実に備わっているとも言えよう。子どもたちのもつ、こうした人と人とのつながり方をよりよいものにしていく不思議な力がさらに豊かなものになるよう支えていきたい。

校長 大林 道範